

浜矩子氏の講演

正義と平和が抱き合う時
— いがみ合いの向こう側を目指して

「強い日本を取り戻す」という安倍政権は「大日本帝国」を目指しているようだ。「アベノミクス」で人気取りをし、実のところは富国強兵をすすめている。喧伝される「アベノミクス」を、エコノミストの視点から私は、「アホノミクス」と言ってきた。人々の生活を豊かにするのが経済学の使命であり、「アベノミクス」は正反対であるからだ。

「アベノミクス」の「異次元の量的緩和政策」であふれたカネは設備投資や個人消費に回っているのではない。あふれたカネを「投機市場」に呼び込もうとしているのである。これはグローバル時代のはやり病いであり、日

銀がバブル製造装置になり政府の格差拡大政策の手助けをしている。非正規雇用や貧困層の拡大は深刻な状況になっている。安倍政権は何故このような政策をとるのか。一つには現実を見ようとしないうことがあ

る。デフレを終わらせると主張しながら、現実はそのようになっていないのである。もう一つは人の痛みが分からないことがある。グローバル時代は実は諸国共

するために、富国強兵をすすめる勢力から平和を取り戻し、いがみ合いの向こう側を目指していこう。それは日本国憲法に謳われていることであり、一句たりとも日本国憲法を変えさせないために頑張りましょう。(編・〇)

平和憲法を守る誓い

3/8 国際女性デー

母としてジャーナリストとして

海南友子さんの講演より

しい子どもたちが何を作るか知らされずに働かされていた事実、その化学兵器が中国大陸で遺棄兵器として埋められ、現在もその処

理に自衛隊が対処していること、そして工事の作業員、現場近くで遊んでいた子どもたちが被害にあっているという事、戦争は一度始めるといつまでも終わらない、と語られ、驚きと憤りがわいてきました。

● 今できることを ●

ドイツのシェーナウ地方でお母さんたちが自然エネルギーの電力会社を作った話を取材し元気が出たと話されました。自分のできることを始める、今日やっていることが10年後につなげられると話され勇気づけられた講演でした。

● 終わらない戦争 ●

第二次大戦中、国際法で禁止されている化学兵器が、広島にない島で作られ、貧

3/7 日本を戦争する国にしないさせないと訴える宮城県民集会



勾当台公園市民広場に、戦争反対を訴え、1600人を越える人々が集まった

3/2 コア主催 陽だまり登山

達居森 (たつこもり) に登る

大衡村と大和町の境界にある達居森は、アイヌ語の「たんこぶ」を意味するらしい。



七つ森を見ながら昼食

仙台から北に約1時間ほどで登山口にある牛野ダムに到着する。登山口からすぐに階段のややきつい登りが続く。登山道の傍らにはカタクリの葉が沢山あって、あと2週間もすれば全山紫色の花で染まるようだ。カタクリの開花には早かったが、黄色のマンサクを眺めながら山頂を目指す。「たんこぶ」の語源どおり、ピークが沢山あって上り下りを繰り返す。この山は、低山ながら自然度が高く、カタクリの咲く早春の陽だまり登山にはうってつけの場所だと思った。

